

2024 フクシマ連帯キャラバン報告書

今回3月16日から18日までの3日間にてフクシマ連帯キャラバンに参加してきました。

16日はパルセいいざかにて、福島県民集会に参加しました。

現地の力強い太鼓の演奏から始まり、被災を受けた現地の方たちの話、映像の方ではクレヨンハウスを主宰した落合恵子さんの話を聞きました。

その後からは原子力の学習会、キャラバン帯の結団式を行い一致団結し、いわき市に移動し懇親会を行い初日を終わりました。

17日は学習会から始まりました。キャラバンの歴史ということで第1回のキャラバン帯の活動を資料と当時の写真を見ながらの学習会で初参加の自分には歴代の活動が分かりやすく伝わりました。学習会のあとは浪江町の請戸小学校や双葉町の伝承館にフィールドワークが始まり、移動中の車内でも資料と共に現状の説明がありました。移動中の風景が住民が戻ってきていない影響で建物や電線にまでツルが巻きついていて人の手が入らないとここまで草木に覆われてしまうのかと驚愕しました。双葉駅前周辺に復興のための解体していない建物にイラストが多数見られこのような形で復興に力を入れているのだと発想力が自分では思いつかない形で見られました。請戸小学校の見学では震災当時は卒業シーズンであり卒業を祝うプレートを吊るされたままの全壊の体育館、津波に飲まれた教室の備品や錆び付いた設備があるままで沢山拝見した際には、なぜだか涙が出てきました。

伝承館での施設見学は震災当時の物品やデジタルの力を借りた原発事故、津波災害などの資料を見て、自分自身の震災の記憶が鮮明に思い返すことができ心に刺さるものが沢山ありました。

18日では強風の中津島区の原告団とのフィールドワーク、意見交換会が行われました。原告団の方の元居住地に出向き解体も出来ずに震災時のまま時が止まった家に入り原発事故の悲惨さを肌で感じました。

当時津島市の診療所には数百人の患者が一斉に押し寄せ薬を貰いに来ていたがそのときに原発事故により放射能が押し寄せてきているという情報が住人のパニックになることを恐れた国の情報共有の甘さ、酷さが原告団の説明で怒りまで自分でも感じられた。意見交換会では、除染作業が行われた地域が増えてきている中やはり住民の回復がうまく進まず復興にはまだまだ時間がかかるものだと実感しました。原告団の方達も参加している【ツシマ】というドキュメンタリー映画が全国で放映が始まるとのことで是非見て頂き津島区の被害や復興への道しるべを知る方法もありキャラバンに参加していない方にも見て欲しいと思います。三陸分会は福島までのキャラバン参加だったが、全体を通してまだ復興が追いついていない地域が自分たちと同じ震災を受けた東北にも存在している現状であり、それには原発事故が深く関わっていて脱原発が必要不可欠なのかと意見が固まった3日間でありました。そして自分や福島の現地の様子を見に行っていない方たちも原発事故の被害や恐ろしさ津波の被害という震災の風化が始まっていると気付かされ、キャラバンに参加した人間として福島の被災地の現状であったり、伝承館の存在であったり身近な人や若い世代の人達に周知していくことがキャラバンに参加した自分の大切な役割だと思います。